

【病院の属性】

Q1 経営形態

		%
国立	2	0.7
公立(自治体立)	44	15.4
医療法人	92	32.3
社会福祉法人	35	12.3
学校法人	24	8.4
公益法人	33	11.6
個人	7	2.5
その他	48	16.8
	285	

Q2 病床数(平成10年11月時点)(精神・結核を除く):床
総病床数

		%
200未満	58	20.9
201~300	53	19.1
301~400	60	21.6
400~500	245	8.6
500~600	30	10.8
601以上	53	19.1

そのうち療養型または特例許可病床数

		%
なし	174	20.9
100未満	56	19.1
101~200	31	21.6
201~300	14	8.6
301~400	6	10.8
401以上	4	19.1

そのうちリハビリテーション病床数

		%
なし	238	83.8
1~10	6	2.1
11~20	6	2.1
21~30	14	0.7
31以上	6	11.3

Q3 平均在院日数(精神科除く。小数点第位までを記入):日
一般病床

		%
なし	39	13.6
15日未満	11	3.8
15日以上20日未満	78	27.3
20日以上25日未満	94	32.9
25日以上30日未満	25	8.7
30日以上	39	13.6

療養型病床群

		%
なし	171	62.2
90日未満	21	7.6
90日以上201日未満	7	2.5
120日以上180日未満	16	5.8
180日以上365日未満	33	12
365日以上	27	9.8

Q4 同じ組織内にある関連機関(複数回答)

	有り	%
訪問看護ステーション	106	36.9
在宅介護支援センター	68	23.7
老人保健施設	60	20.9
特別養護老人ホーム	40	13.9
ケアハウス	11	3.8
デイサービスセンター	22	7.7
グループホーム	3	1
その他	19	6.6
なし	127	44.3

Q5 組織内にあるサービス(複数回答)

	有り	%
訪問診療	114	39.7
訪問看護	176	61.3
訪問リハビリ	90	31.4
老人デイケア・デイサービス	73	25.4
ショートステイ	47	16.4
医療ショートステイ		
ナイトケア	37	12.9
ホームヘルパー派遣	10	3.5
配食サービス	25	8.7
その他	71	24.7
なし	5	1.7

Q6 転入院を受け入れる特定の紹介先(「後方病院」の有無)

	有り	%
組織系列内の特定紹介先あり	35	12.2
診療科や医師限定の紹介先あり	70	24.2
MSW開拓の紹介先あり	130	45.3
なし	112	39
その他	16	5.6

【MSW部門の属性】

Q7	専任MSW数:人	0人	1人	2人	3人	4人以上
		13	96	100	36	42
	%	4.5	33.4	34.8	12.5	14.6

Q8	病院組織上のMSWの位置づけ					%
	独立して医療福祉相談室などMSWのみのセクションがある	162				56.4
	保健婦などと共同で総合相談部などを設置している	9				3.1
	事務部門(医事課、総務課、事務室など)に所属している	80				27.9
	医局や診療部門に所属している	22				7.7
	その他	14				4.9

Q9	MSW専用の面接室			%
	ある	259	90.2	
	ない	28	9.8	
	ある場合の部屋数			%
	1	173	67.6	
	2	65	25.4	
	3	13	5.1	
	4以上	5	2	

【退院援助業務の実態】

Q10	退院援助事例の年間件数:件			%
	50件未満	37	13.6	
	50件以上100件未満	68	24.9	
	100件以上200件未満	83	30.4	
	200件以上300件未満	35	12.8	
	300件以上	50	18.3	

Q11	過去1年間の退院援助事例数			%
	大変増えている	85	30.8	
	少し増えている	123	44.6	
	変わらない	60	21.7	
	少し減っている	8	2.9	
	大変減っている	0		
		276		

Q12	退院援助によって退院する先の割合					
		20%未満	20%~45%	46%~69%	70%~84%	85%以上
	在宅	47	140	36	19	5
	病院	67	88	54	34	1
	老人保健施設	137	115	16	1	
	施設	222	21	8	11	
	その他					

Q13 過去1年間の退院援助を巡る本人と家族、院内職員や地域関係者との摩擦やトラブル数

		%
大変増えている	13	4.7
少し増えている	82	29.4
変わらない	158	56.6
少し減っている	19	6.8
大変減っている	7	2.5
	279	

Q14 解決するのが難しい退院援助の困難要因

	1位	2位	3位
家族関係	65	36	31
家族の介護能力	68	53	24
平均在院日数の短縮という組織的圧力	19	29	24
医療依存度(気管切開など)の高さ	81	1	36
在宅保健・福祉サービスの質	4	16	14
在宅保健・福祉サービスの量	14	43	54
施設サービスの質	7	4	14
施設サービスの量	10	26	22
経済問題	11	20	35
住宅問題	2	13	22
医療者＝患者関係	4	4	9

Q15 退院援助の困難要因のうち、取り扱うことが多い順

	1位	2位	3位
家族関係	34	41	36
家族の介護能力	99	47	30
平均在院日数の短縮という組織的圧力	29	14	29
医療依存度(気管切開など)の高さ	40	38	33
在宅保健・福祉サービスの質	8	18	17
在宅保健・福祉サービスの量	30	58	38
施設サービスの質	7	5	12
施設サービスの量	13	24	22
経済問題	0	26	36
住宅問題	2	8	18
医療者＝患者関係	2	5	10

Q16 退院援助の困難要因を解決するために強く発揮しているソーシャルワーク機能

	1位	2位	3位
情報収集・問題把握機能	143	35	30
社会資源仲介・動員機能	48	95	43
調停機能	12	13	19
社会資源開発機能	12	10	17
保護・代弁機能	4	17	24
連絡調整・連携機能	46	82	76
支持・助力機能	12	11	27
協働・促進機能	3	9	20
出向・援助機能		5	12
指導・教育・治療機能	2	1	6
組織的機能		3	4

Q17 退院援助のために、大いに力を入れているソーシャルワーク業務

	1位	2位	3位
家庭環境チェック	37	26	14
住宅・環境改善手配	5	13	15
インフォーマルネットワークの形成	4	9	5
サービスの申請	11	22	22
クライアントによる自己決定の促進	47	30	31
生活設計変更への心理的サポート	10	9	10
親族・家族との退院計画の話し合い	122	71	28
介護者への心理的サポート	10	27	47
退院の為の院内スタッフとの連携	31	66	78
退院後のフォローアップ	2	8	25
入院中の退院計画遂行チェック	4	2	7

【実践の前提となる要因】

Q18 院内職員に対して、退院援助におけるMSWの役割についての説明

		%
大に行っている	36	12.6
だいたい行っている	107	37.5
あまり行っていない	92	32.3
ほとんど行っていない	50	17.5
	285	

Q19 MSWの存在や業務説明のためのパンフレットやチラシなどの広報手段

		%
大いに使っている	42	14.8
だいたい使っている	90	31.7
あまり使っていない	81	28.5
ほとんど使っていない	71	25
	284	

Q20 退院援助に関わる院内の委員会への出席

		%
必ずしている	69	24.2
だいたいしている	53	18.6
あまりしていない	20	7
ほとんどしていない	8	2.8
委員会がない	135	47.4
	285	

Q21 退院援助対象者に対して一定のアセスメントシート・ケアプランシート等の使用

		%
必ず使っている	23	8
だいたい使っている	59	20.6
あまり使っていない	57	19.9
ほとんど使っていない	147	51.4
	286	

Q22 退院予定者に対する定期的な地域連絡調整会議への出席

		%
必ずしている	22	7.7
だいたいしている	45	15.8
あまりしていない	36	12.6
ほとんどしていない	47	16.5
	135	47.4
	285	

Q23 社会資源開拓のための情報収集活動

		%
大いにしている	57	20
だいたいしている	140	49.1
あまりしていない	59	20.7
ほとんどしていない	29	10.2
	285	

Q24 ボランティア組織や地域の患者会や介護者の会の組織化や参加・運営

		%
大に行っている	25	8.7
だいたい行っている	42	14.7
あまり行っていない	73	25.5
ほとんど行っていない	146	51
	286	

Q25 地域の保健・医療・福祉計画に反映するような意見や要望を行政に提出

		%
大に行っている	13	4.5
だいたい行っている	49	17.1
あまり行っていない	89	31.1
ほとんど行っていない	135	47.2
	286	

Q26 相談事業・広報誌・ミニ紙を使つての市民への広報活動

		%
大に行っている	9	3.1
だいたい行っている	30	10.5
あまり行っていない	78	27.3
ほとんど行っていない	169	59.1
	286	

Q27 使いにくいサービスや柔軟性のない制度を変えていくためのソーシャルアクション

		%
大に行っている	21	7.3
だいたい行っている	57	19.9
あまり行っていない	114	39.9
ほとんど行っていない	94	32.9
	286	

【実践のプロセス】

(発見・特定)

Q28 退院援助の対象者を発見するための仕組みは何を採用していますか(複数回答)

	あり	なし	計
全員インテーク	242	45	287
特定の疾患や領域に対するインテークルート	202	85	287
明文化されたスクリーニング基準やスクリーニングチェックリスト	267	20	287
その他	239	48	287
そのような仕組みはない			

Q29 退院援助対象者の紹介経路の割合:割

	20%未満	20～44%	45～69%	70～84%	85%以上
担当医から	51	28	58	13	7
看護婦から	114	85	26	13	1
その他の職員から					
本人・家族自身から	223	42		2	2
関係機関から	262	5			
カンファレンスやミーティングなどでMSW自身が発見して	248	15	10		1
その他					

Q30 MSWの退院援助のために、担当医や看護婦は依頼用紙を使用しているか

		%
大いに使用している	50	17.5
だいたい使用している	58	20.4
あまり使用していない	52	18.2
ほとんど使用していない	125	43.9
	285	

(インテーク・情報収集・アセスメント)

Q31 入院相談や入院時面接では、退院援助を想定して本人家族に情報収集をするか

		%
いつも行っている	96	33.9
だいたい行っている	93	32.9
あまり行っていない	29	10.2
ほとんど行っていない	65	23
	283	

Q32 関係機関からの照会事例では、退院援助を想定して照会元へ情報収集をしますか。

		%
いつも行っている	84	29.7
だいたい行っている	123	43.5
あまり行っていない	40	14.1
ほとんど行っていない	36	12.7
	283	

Q33 本人がコミュニケーションに障害のある場合でも、直接面接をしているか

		%
いつも行っている	62	21.7
だいたい行っている	158	55.2
あまり行っていない	55	19.2
ほとんど行っていない	11	3.8
	286	

Q34 忙しいなどの理由で面接に来たがらない家族とも、会うようにしているか

		%
いつも行っている	94	33
だいたい行っている	173	60.7
あまり行っていない	17	6
ほとんど行っていない	1	0.4
	285	

Q35 病状に関する医師や看護婦からの情報収集は、複数人から複数回にわたって行っているか

		%
いつもそうしている	93	32.7
だいたいそうしている	156	54.9
あまりそうしていない	33	11.6
ほとんどそうしていない	2	0.7
	284	

Q36 退院援助対象者の病歴や治療経過を、カルテで再確認しているか

		%
いつも確認している	173	60.5
だいたい確認している	87	30.4
あまり確認していない	22	7.7
ほとんど確認していない	4	1.4
	286	

Q37 病棟での介護場面やリハビリテーション訓練場面に同席をするか

		%
いつも行っている	23	8
だいたい行っている	128	44.8
あまり行っていない	107	37.4
ほとんど行っていない	28	9.8
	286	

Q38 インテーク面接の結果、在宅か転院、施設入所の方向性を特定できる事例は

		%
～20%未満	7	2.6%
20%～44%	22	8.0%
45%～69%	66	24.1%
70%～84%	139	50.7%
85%～	40	14.6%
	274	

Q39 インテークの結果、動いてくれるキーパーソンを特定することのできる事例は

		%
～20%未満	3	1.1%
20%～44%	15	5.5%
45%～69%	40	14.6%
70%～84%	115	42.0%
85%～	88	32.1%
	261	

Q40 インテークの時点で、本人と介護者以外でも、幅広く家族全体の考え方を把握しているか

		%
いつも把握している	22	7.8
だいたい把握している	154	54.4
あまり把握していない	99	35
ほとんど把握していない	8	2.8
	183	

Q41 インテークの時点で、生活環境や住宅状況を把握しているか

		%
いつも把握している	47	16.5
だいたい把握している	192	67.6
あまり把握していない	39	13.7
ほとんど把握していない	6	2.1
	284	

Q42 インテークは立ち話でなく、正規の面接として時間と場所を確保しているか

		%
いつも確保している	189	66.3
だいたい確保している	89	31.2
あまり確保していない	6	2.1
ほとんど確保していない	1	0.4
	285	

Q43 退院に関して、本人・家族と医師の理解が食い違うのは、援助事例のうち何割か

		%
2割未満	14	5
2割以上4割未満	12	5.3
4割以上6割未満	116	41.1
6割以上8割未満	89	31.6
8割以上	48	17

Q44 病状に関して本人・家族と担当医の理解が食い違う場合
まず医師にもどして話をしてもらうか

		%
必ずしてもらう	171	60.6
だいたいしてもらう	101	35.8
あまりしてもらわない	9	3.2
ほとんどしてもらわない	1	0.4
	282	

Q45 退院先の「場」に関して本人・家族と担当医の理解が食い違う場合
まず医師にもどして話をしてもらうか

		%
必ずしてもらう	64	22.9
だいたいしてもらう	149	53.2
あまりしてもらわない	57	20.4
ほとんどしてもらわない	10	3.6
	280	

Q46 感情的に反応している本人・家族と担当医の理解が食い違う場合
まず医師にもどして話をしてもらうか

		%
必ずしてもらう	119	42.3
だいたいしてもらう	111	39.5
あまりしてもらわない	43	15.3
ほとんどしてもらわない	8	2.8
	281	

Q47 退院に関して、本人と家族の意向が食い違うのは、援助事例の何割か

		%
2割未満	140	50.4
2割以上4割未満	80	28.8
4割以上6割未満	48	17.3
6割以上8割未満	8	2.9
8割以上	2	0.7

Q48 両者を調整するためには、まず最初に本人の意向を家族に伝えるか

		%
必ずする	102	36.4
だいたにする	154	55
あまりしない	22	7.9
ほとんどしない	2	0.7
	280	

Q49 退院に関して本人家族と医療者側の意向が食い違うのは

		%
2割未満	133	47.32
2割以上4割未満	75	26.7
4割以上6割未満	57	20.3
6割以上8割未満	11	3.9
8割以上	5	1.8

Q50 両者を調整するために、まず最初に本人家族の意向を医療者側に伝えるか

		%
必ずする	169	59.9
だいたにする	102	36.2
あまりしない	10	3.5
ほとんどしない	1	0.4
	282	

(援助計画の立案と実施)

Q51 援助計画の案は本人・家族に書面にして提示を行っているか

		%
大に行っている	16	5.7
だいたい行っている	46	16.3
あまり行っていない	93	33
ほとんど行っていない	127	45
	282	

Q52 援助計画は本人・家族の意向に合わせ、修正ややり直しを行っているか

		%
大に行っている	110	39
だいたい行っている	158	56
あまり行っていない	12	4.3
ほとんど行っていない	2	0.7
	282	

Q53 援助計画をたてる際には、院内スタッフと意見調整やカンファレンスを行っているか

		%
大に行っている	94	33.2
だいたい行っている	150	53
あまり行っていない	30	10.6
ほとんど行っていない	9	3.2
	283	

Q54 援助計画をたてる際には、関係機関との意見調整やカンファレンスを行っているか

		%
大に行っている	50	17.7
だいたい行っている	156	55.1
あまり行っていない	62	21.9
ほとんど行っていない	15	5.3
	283	

Q55 援助計画は短期目標だけではなく、長期目標も本人・家族に提示を行っているか。

		%
大に行っている	57	20.2
だいたい行っている	161	57.1
あまり行っていない	51	18.1
ほとんど行っていない	13	4.6
	282	

Q56 社会資源サービスは複数を紹介し、本人・家族が選択できるようにしているか

		%
大に行っている	146	51.6
だいたい行っている	127	44.9
あまり行っていない	9	3.2
ほとんど行っていない	1	0.4
	283	

Q57 社会資源の情報は分かりやすくリーフレット等を作成し、本人・家族に手渡しているか

		%
必ず行っている	52	18.5
だいたい行っている	131	46.6
あまり行っていない	68	24.2
ほとんど行っていない	30	10.7
	281	

Q58 他施設や他機関の利用の際は、事前に見学・相談を本人・家族が行うようにしているか

		%
必ず行っている	139	48.9
だいたい行っている	121	42.6
あまり行っていない	21	7.4
ほとんど行っていない	3	1.1
	284	

Q59 退院の前には患者家族を交えて、関係機関や院内職員との打ち合わせの会合を開いているか

		%
大に開いている	18	6.3
だいたい開いている	114	40.1
あまり開いていない	111	39.1
ほとんど開いていない	41	14.4
	284	

Q60 在宅復帰する前には、試験外出や外泊訓練を勧めているか

		%
大いに勧めている	130	45.9
だいたい勧めている	133	47
あまり勧めていない	17	6
ほとんど勧めていない	3	1.1
	283	

Q61 計画を遂行する際には本人・家族のサービス利用能力を評価しそれによって資源の繋ぎ方を変えているか

		%
必ず変えている	99	35
だいたい変えている	165	58.3
あまり変えていない	18	6.4
ほとんど変えていない	1	0.4
	283	

Q62 計画を遂行する際、より実現可能な選択肢を検討しているか

		%
必ず行っている	106	37.5
だいたい行っている	159	56.2
あまり行っていない	17	6
ほとんど行っていない	1	0.4
	283	

Q63 本人・家族が自分で決定できるだけの時間を確保すべく、病院側に退院延期を働きかけるか

		%
大に行っている	74	26.2
だいたい行っている	177	62.8
あまり行っていない	29	10.3
ほとんど行っていない	2	0.7
	282	

Q64 計画を遂行する際、本人・家族と1事例につき、平均面接回数

		%
4回以下	121	45
5回～6回	98	36.4
7回～8回	24	8.9
9回～10回	17	6.3
10回以上	9	3.3

Q65 面接の回数は、自宅復帰の方が転院の場合よりも平均して

		%
多い	214	76.7
変わらない	39	14
少ない	26	9.3
	279	

Q66 本人・家族の問題解決への意欲を維持するためにパートナーシップの形成を導入しているか

		%
大に行っている	57	20.4
だいたい行っている	164	58.8
あまり行っていない	52	18.6
ほとんど行っていない	6	2.2
	279	

Q67 計画実施の際には、本人・家族の問題解決の意欲が低下した場合
援助計画の変更も含めて検討する

		%
大いに行っている	63	22.6
だいたい行っている	183	65.6
あまり行っていない	29	10.4
ほとんど行っていない	4	1.4
	279	

(モニタリング・事後評価)

Q68 退院後の状況は、全退院援助事例のうち握している割合

		%
0割	4	1.4
1. 5割	57	20.5
1. 6割～2割	52	18.7
2. 1割～4割	80	28.8
4. 1割～6割	57	18.3
6. 1割以上	34	12.2

Q69 モニタリングは、本人家族の状況の変化とサービス自体の供給状況のうち
どちらを把握するか

		%
本人家族の状況をつかむ ことの方が多い	142	51.3
サービスの適合性をつか むことの方が多い	18	6.5
同じくらい	117	42.2

Q70 退院後把握したい情報は、主として誰から得ているか

	1位	2位	3位
直接本人・家族から	154	100	28
院内職員	25	50	163
関係機関	10	128	51
その他	2	1	15

Q71 退院後の状況把握を他機関に依頼する場合は、どこに依頼しているか

	1位	2位	3位
市役所等行政窓口	53	52	56
在宅介護支援センター	103	53	46
訪問看護ステーション	57	96	53
医療機関	49	46	60
その他	11	18	24

Q72 どのような方法によって把握しているか

	1位	2位	3位
病院にきてもらう	12	38	50
訪問する	6	66	61
電話する	230	34	6
定型化した書式と文書	13	27	20
会合	10	65	43
その他	8	13	20

Q73 モニタリングによって得られた結果について、院内の関係者に知らせているか

		%
大いに知らせている	33	11.9
だいたい知らせている	147	52.9
あまり知らせていない	80	28.8
ほとんど知らせていない	18	6.5
	278	

Q74 実施した退院援助に対して、本人・家族からの満足度など事後評価を聞く機会を持つか

		%
大いに持っている	7	2.5
だいたい持っている	47	16.6
あまり持っていない	149	52.7
ほとんど持っていない	80	28.3
	283	

Q75 実施した退院援助の効果について、各関係機関にその後を聞いて事後評価をする機会を持つか

		%
大いに持っている	4	1.4
だいたい持っている	65	23.1
あまり持っていない	142	50.5
ほとんど持っていない	70	24.9
	281	

Q76 実施した退院援助の結果について、院内スタッフと話し合う機会を持つか

		%
大いに持っている	2	0.7
だいたい持っている	67	23.8
あまり持っていない	143	50.9
ほとんど持っていない	69	24.6
	281	

Q77 一連の退院援助の自己評価は、ケース記録などに明記しているか

		%
大に行っている	24	8.5
だいたい行っている	92	32.7
あまり行っていない	113	40.2
ほとんど行っていない	52	18.5
	281	

Q78 一連の退院援助を通じて、本人・家族の障害受容や人生の取り組み姿勢は変わるか

		%
大に変わる	15	5.6
だいたい変わる	134	50
あまり変わらない	109	40.7
ほとんど変わらない	10	3.7
	268	

Q79 一連の退院援助を通じて、ネットワークづくりに寄与できている

		%
大に寄与できている	38	13.7
だいたい寄与できている	173	62.5
あまり寄与できていない	59	21.3
ほとんど寄与できていない	7	2.5
	277	

【回答者の属性】

Q80 性別

		%
男性	95	33.2
女性	191	66.8
	286	

Q81 年齢

		%
20代	76	26.6
30代	92	32.2
40代	78	27.3
50代	38	13.3
60代以上	2	0.7

Q82 MSWとしての経験年数

		%
2年未満	56	19.6
2年以上五年未満	104	36.4
5年以上10年未満	76	26.6
10年以上20年未満	43	15
20年以上	7	2.4

Q83 最終学歴

		%
高等学校	8	2.8
社会福祉系専門学校	12	4.2
社会福祉系短大	6	2.1
社会福祉系大学	216	75.5
社会福祉系大学院	7	2.4
社会福祉系以外の大学お	25	8.7
その他	12	4.2
	286	

Q84 最近1年間で、MSWとしての研修を受けたか

		%
ある	210	73.4
ない	76	26.6

受けた研修の数

		%
1～2	6	3
3～5	87	42.9
6～10	73	36
11～15	10	4.9
16年以上	27	13.3

Q85-1 退院援助業務はあなたにとって本来業務である

		%
大いにそう思う	155	54
だいたいそう思う	118	41.1
あまりそう思わない	10	3.5
全くそう思わない	1	0.3
	284	

Q85-2 退院援助はあなたにとって気が進まないものである

		%
大いにそう思う	23	8
だいたいそう思う	55	19.7
あまりそう思わない	130	45.3
全くそう思わない	71	24.7
	279	

Q85-3 退院援助はあなたにとって興味深いものである

		%
大いにそう思う	82	28.6
だいたいそう思う	114	39.7
あまりそう思わない	75	26.1
全くそう思わない	6	2.1
	277	

Q85-4 退院援助はあなたにとってやりがいのあるものである

		%
大いにそう思う	84	29.3
だいたいそう思う	136	47.4
あまりそう思わない	56	19.5
全くそう思わない	1	0.3
	277	

表1 医療ソーシャルワーカーの退院援助業務に関わる取り組み姿勢と援助基盤・手順との関係性 (カイニ乗検定)

p ≤ 0.05 * p ≤ 0.01 ** p ≤ 0.001 ***

大項目	中項目	本来業務	気が進まない	興味深い	やりがいがある
病院の属性	病院機能 延べ形態 総病床数 療養型病床数 平均在院日数(一般病床) 平均在院日数(療養型病床) 組織内関連機関の数 組織内関連サービスの数 特定紹介先の窓口の数	*		*	
MSW部門の属性	専任SW数 専任+兼任SW加算数 組織内位置づけ 面談室の有無 面談部屋数				
業務の実態	取り扱い件数 SW一人当たり取り扱い件数 援助事例数の年間推移 退院先の割合(在宅率) 退院先の割合(転院率) トラブル数の年間推移 困難要因(困難度)の1位 困難要因(取り扱い数)の1位 発案すべきSW業務の1位 発案したいSW業務の1位	*			**
実践基盤	組織者発への説明の機会 広義・説明手段の確保 退院に関わる委員会の出席 アセスメントシート等の使用 定期的地域連絡会の出席 社会資源開拓目的の外出 地域組織化への努力 地域計画に反映する意見要望 市民への広報活動 ソーシャルアクション	*** *		*	*
実践手順	全員インターク率 特定分野のインタークルート保持率 紹介経路(医師より) 紹介経路(看護婦より) 特定依頼用紙の利用				
	インターク時の退院援助の認定 後継紹介事例の退院援助の認定 コミュニケーション障害患者への面談 面談に未だがない家族への面談 医師看護婦からの複数回の情報収集	*** *** * *	** ***	***	***
	病歴治療経過のカルテ再確認 介護・リハ訓練場面への対応 行き先の方向性の特定割合 キーパーソンの特定割合 家族の意向情報の把握 生活・住環境の把握 面談場所と時間の確保 患者側と医師の理解のくい違い割合 病状の理解のくい違い 退院の専ら理解のくい違い 退院への感情的くい違い 本人と家族の意向のくい違い割合 本人意向の家族への働き方 患者側と医療者側の意向のくい違い割合 患者側意向の医療者への働き方	**	**	*	*
	援助計画書の書面提示 援助計画の修正ややり直し 院内職員とのカンファレンス 関係機関とのカンファレンス 長期目標の提示 社会資源の複数提示 社会資源のリーフレット化 事前見学・相談の勧め 退院前の本人欄を交えた話し合い 試験外泊や外出の勧め サービス利用能力の評価と資源の働き方の変更 問題対処能力の評価と実現可能な選択肢の検討 組織への退院延期の働きかけ 平均面談回数 自宅復帰の面談回数の傾向 パートナーシップの形成 意欲低下と再検討の機会	** *		*	**
退院後の状況の把握割合 モニタリングの目的 把握の情報元1位 把握の情報元機関1位 把握方法1位 結果の院内スタッフへの知らせ 事後評価の患者側からの聴取 事後評価の関係機関からの聴取 事後評価の院内スタッフからの聴取 事後評価のSWとしての明記 人生の取り組み姿勢の変化 ネットワークづくりへの寄与	* *** *** * * * * *	**	*** *** * *** * *** *	*** *** * *** * *** *	
回答者の属性	性別 年齢 経験年数 最終学歴 研修経験の有無 研修日数				

表2 自分にとって本来業務

大いにそう思う	155 (54.0%)
だいたいそう思う	118 (41.1%)
あまりそう思わない	10 (3.5%)
全くそう思わない	1 (0.3%)
不明	3 (1.1%)
合計	287 (100%)

表3 自分にとって気が進まない

大いにそう思う	23 (8.0%)
だいたいそう思う	55 (19.2%)
あまりそう思わない	130 (45.3%)
全くそう思わない	71 (24.7%)
不明	8 (2.8%)
合計	287 (100%)

表4 自分にとって興味深いもの

大いにそう思う	82 (28.6%)
だいたいそう思う	114 (39.7%)
あまりそう思わない	75 (26.1%)
全くそう思わない	6 (2.1%)
不明	10 (3.5%)
合計	287 (100%)

表5 やりがいのあるもの

大いにそう思う	84 (29.3%)
だいたいそう思う	136 (47.4%)
あまりそう思わない	56 (19.5%)
全くそう思わない	1 (0.3%)
不明	10 (3.5%)
合計	287 (100%)

表7 本来業務 対 サービス数

	0	1	2	3	4	5	6	7以上	合計
積極群	2(33.5%)	5(16.1%)	3(14.8%)	0(12.9%)	8(5.2%)	0(6.5%)	9(5.8%)	8(5.2%)	5(54.6%)
消極群	6(20.1%)	6(27.9%)	5(19.3%)	1(16.3%)	9(7.0%)	6(4.7%)	4(3.1%)	2(1.6%)	9(45.4%)
合計	8(27.5%)	1(21.5%)	8(16.9%)	1(14.4%)	7(6.0%)	6(5.6%)	3(4.6%)	0(3.5%)	4(100%)

$$\chi^2 = 0.042, \quad p \leq 0.05^*$$

表6 興味深いもの 対 経営形態

	国・公立	法人立	個人・他	合計
積極群	8 (9.8%)	64 (78.0%)	10 (12.2%)	82 (29.8%)
消極群	37 (19.2%)	117 (60.5%)	39 (20.2%)	193 (70.2%)
合計	45 (16.4%)	181 (65.8%)	49 (17.8%)	275 (100%)

$$\chi^2 = 0.019, p \leq 0.05^*$$

表8 興味深い 対 特定紹介先の窓口数

	0	1	2	3	合計
積極群	19 (23.2%)	43 (52.4%)	16 (19.5%)	4 (4.9%)	82 (29.6%)
消極群	84 (43.1%)	72 (36.9%)	32 (16.4%)	7 (3.6%)	195 (70.4%)
合計	103 (37.2%)	115 (41.5%)	48 (17.3%)	11 (4.0%)	277 (100%)

$$\chi^2 = 0.018, p \leq 0.05^*$$

表9 本来業務 対 在宅率

	5割未満	5割以上	合計
積極群	116 (75.8%)	37 (24.2%)	153 (55.0%)
消極群	107 (85.6%)	18 (14.4%)	125 (45.0%)
合計	223 (80.2%)	55 (19.8%)	278 (100%)

$$\chi^2 = 0.041, p \leq 0.05^*$$

表10 やりがいのあるもの 対 在宅率

	5割未満	5割以上	合計
積極群	57 (69.5%)	25 (30.5%)	82 (30.1%)
消極群	162 (85.3%)	28 (14.7%)	190 (69.9%)
合計	219 (80.5%)	53 (19.5%)	272 (100%)

$$\chi^2 = 0.002, p \leq 0.01^{**}$$

表11 本来業務 対 説明の機会

	大いに	だいたい	あまり	ほとんど	合計
積極群	31 (20.0%)	59 (38.1%)	42 (27.1%)	23 (14.8%)	155 (54.6%)
消極群	5 (3.9%)	47 (36.4%)	50 (38.8%)	27 (20.9%)	129 (45.4%)
合計	36 (12.7%)	106 (37.3%)	92 (32.4%)	50 (17.6%)	284 (100%)

$$\chi^2 = 0.000, p \leq 0.001^{***}$$

表12 本来業務 対 広報手段

	大いに	だいたい	あまり	ほとんど	合計
積極群	29 (18.7%)	56 (36.1%)	39 (25.2%)	31 (20.0%)	155 (54.8%)
消極群	13 (10.2%)	34 (26.6%)	42 (32.8%)	39 (30.5%)	128 (45.2%)
合計	42 (14.8%)	90 (31.8%)	81 (28.6%)	70 (24.7%)	283 (100%)

$$\chi^2 = 0.018, p \leq 0.05^*$$

表13 本来業務 対 資源開拓目的の情報収集

	大いに	だいたい	あまり	ほとんど	合計
積極群	43 (27.7%)	68 (43.9%)	30 (19.4%)	14 (9.0%)	155 (54.8%)
消極群	13 (10.2%)	71 (55.5%)	29 (22.7%)	15 (11.7%)	128 (45.2%)
合計	56 (19.8%)	139 (49.1%)	59 (20.8%)	29 (10.2%)	283 (100%)

$$\chi^2 = 0.003, p \leq 0.01^{**}$$